

中学生教育委員会

～学校生活・授業の向上を～

1月7日(月)、「中学生教育委員会」が揖斐川町役場で行われました。この取り組みは、学校生活や授業のあり方などを話し合うもので、町内6中学校から1、2年生の代表19人と教育委員、教諭など約50人が参加しました。

中学生委員は、全校で重点的に取り組むテーマを決定するために多くの意見を出し合いました。1時間以上におよぶ議論の末に「仲間の良いところを見つけよう」と「思いやりのある言動をしよう」の2つを「生徒会サミット宣言」として採択しました。司会進行を務めた、揖斐川中学校2年生の高橋拓未さんは「生徒一人一人がしっかりと理解できるようにしたい。」と話しました。



▲意見を述べる中学生委員

春日燈籠まつり

～無病息災を願う～

1月12日(土)、無病息災を願って男衆が燈籠を奪い合う「燈籠まつり」(岐阜県無形民俗文化財)が、春日六合下ヶ流地域の薬師堂で行われました。このまつりは、同地域に伝わる伝統行事で、燈籠の一部を手にとると、1年間無病息災・家内安全に御利益があるとされています。

燈籠は、竹を組み合わせた骨組みに行灯(あんどん)が取り付けられ、縁起ものの飾りなどが施されています。20時30分頃から男衆が集まり始め、薬師堂の中央につるされた燈籠の下で「シヨンガイナ踊り」という独特の節回しの舞を奉納。およそ1時間後に男衆ら約100人から「オイサ、オイサ」の掛け声が沸き上がり、襦袢(はだか)がロープを引いて燈籠を落とすと、男衆は一斉に燈籠を奪い合い、1年の幸運をつかみ取っていました。



▲燈籠を奪い合う男衆

揖斐厚生病院前バス停開設

～揖斐川町コミュニティバス～

1月17日(木)、揖斐川町コミュニティバスの停留所「揖斐厚生病院前」(三輪)の運用が始まりました。

今までは、国道417号の栄町病院前バス停が最寄りの停留所でしたが、岡島橋の架け替えや病院周辺の道路拡幅などの整備が整い、病院の玄関口までの乗り入れが可能になり、利便性が高まりました。

乗り入れ開始式には関係者約50人が出席し、宗宮町長は「高齢化社会が進む中で念願の乗り入れができた。これも安全安心なまちづくりの一環として大いに活用していただきたい。」と、塚本達夫院長は「これを機会に、より一層医療の充実に努めたい。」とあいさつされました。



▲バス乗り入れ開始式を祝いました

ありがとう・さようなら園舎会

～きよみず幼稚園～

1月25日(金)、きよみず幼稚園で「ありがとう・さようなら園舎会」が行われました。

きよみず幼稚園は、建築から40年以上が経過し、老朽化や耐震性の観点から新園舎を建設し、3月上旬には新園舎に移転します。

この日は、園児や保護者らが自分たちの名前や好きなアニメキャラクターの絵を壁、窓ガラス、床などにマジックなどで落書きをしました。参加した保護者は「自分もきよみず幼稚園の卒園者で、何十年もこのままだったので取り壊されてしまうのはさみしい気持ちです。」と話しました。

落書きの後は、大道芸人のパフォーマンスショーや保護者との会食も行われ、園舎の思い出を振り返りました。



▲園舎の窓に思い思いの落書きをする園児



▲北海道の恵みを味わう児童たち

1月25日(金)、学校給食で友好都市である北海道芽室町にちなんで、北海道の郷土料理「さけのちゃんちゃん焼き」と「芽室じゃがいも汁」が登場しました。

全国学校給食週間(1月21日～25日)に合わせて、揖斐川町学校給食センターが考案した特別献立の一環です。

この日は、清水小学校5年生の教室で、給食センターの栄養士が給食週間の説明や北海道の特産品などを解説しました。

児童は「魚はちよつと苦手だけど、ちゃんちゃん焼きはおいしい。」「母親が北海道出身なので、おばあちゃんが作ってくれたみそ汁のじゃがいもの味を思い出した。」などと話し、北海道の恵みを味わいました。

学校給食で北海道を味わう

～学校給食週間特別献立～



▲幸運をつかんだ皆さんに記念品が贈られました

1月25日(金)、いび川温泉藤橋の湯の来場者が80万人に達し、いび川温泉藤橋の湯の玄関前で記念のセレモニーが行われました。

80万人目とその前後の方には、揖斐川町の特産品などの記念品が宗宮町長から手渡されました。

80万人目の幸運をつかんだのは、胥永在住の森賢一さんでした。

森さんは「非常にラッキーです。週3回来ていますが、まさか自分が当たるとはびっくりです。」と喜んでいました。

宗宮町長は「温泉に来ていただくことによって、お客様に地域を知っていただき、地域の活性化につながっていくようにがんばりたい。」とあいさつしました。

いび川温泉藤橋の湯 来場80万人達成



▲記念撮影(ディキシー・ミドルスクールにて)

町内の中学2年生の代表17人が、1月17日(木)から25日(金)まで、アメリカ合衆国ユタ州セントジョージ市で研修を行いました。

派遣団の皆さんはホームステイし、アメリカ人の家庭の温かさに触れました。スノーキャニオン・ミドルスクールとディキシー・ミドルスクールの学校訪問では、日本や町の自然・歴史・文化・学校生活を英語で紹介しました。

スノーキャニオン・ミドルスクールでは、調理実習を行い、一緒に朝食を食べました。また、ペアとなった生徒が受ける授業に実際に参加しました。

ディキシー・ミドルスクールでは、英語で自己紹介する様子が各教室に放送されました。

中学生海外派遣事業

～セントジョージ市で学ぶ～



▲さよならパーティーで日本文化を紹介



▲授業に参加
(スノーキャニオン・ミドルスクールにて)

セントジョージ市に滞在する最後の夜、さよならパーティーが行われ、書道、折り紙、けん玉などの日本の文化を英語で紹介すると、ホストファミリーの皆さんは、興味深そうに参加していました。

派遣団の皆さんが今回の経験を活かし、学校や地域社会のなかで、今まで以上に活躍されることを期待しています。

那智勝浦町で鳳凰の舞

まぐろ祭りで谷汲踊を披露



▲まぐろ祭り会場（勝浦漁業協同組合 魚市場）で披露された谷汲踊

揖斐川町と和歌山県那智勝浦町は、「西国三十三カ所巡礼」の1番札所である「青岸渡寺」（那智勝浦町）と最終の33番札所である「谷汲山華厳寺」（谷汲徳積）を有する関係から、谷汲観光協会と那智勝浦観光協会が平成13年から交流をしてきました。また、平成24年12月には、両町で災害時相互応援協定が締結されたことにより、交流が活発になっています。1月26日（土）に那智勝浦町で開催された「第19回まぐろ祭り」では、揖斐川町の観光と伝統芸能のPRとして、谷汲地域が誇る伝統芸能「谷汲踊」が披露されました。那智勝浦町の人たちは「今までに見たことのない珍しい踊りを見ることができてよかった。」「豪華で勇壮だった。」と鳳凰の舞を堪能していました。

ふじはし星の家 増築工事安全祈願祭

2月1日（金）、合宿や研修などに利用されている宿泊施設「ふじはし星の家」（鶴見）で、増築工事に伴う安全祈願祭が行われました。

今回の増築で、現在の収容人員の2倍以上となる150人の研修を受け入れることが可能となります。宿泊施設は鉄筋コンクリート造2階建て（延べ995.46平方メートル）で、バーベキュー棟（100平方メートル）も整備されます。

安全祈願祭の後、宗宮町長は「関ヶ原青少年自然の家が廃止されてから、ふじはし星の家の需要がますます高まっています。多くの団体の方に利用いただき、冬山体験などを楽しんでいたのだと思います。」とあいさつしました。



▲工事の安全を祈願しました

「福は内」節分厄払い行事

谷汲山華厳寺

2月3日（日）、谷汲山華厳寺で、谷汲観光協会主催の節分厄払い行事が行われました。

今年は、好天にも恵まれ、休日が重なったこともあって、谷汲山華厳寺は約1万人の参拝客でにぎわいました。

13時から華厳寺本堂で御祈禱が行われ、その後本堂と高さ4メートルの赤鬼が設置された仁王門の2か所で、家内安全、無病息災などを願い福豆がまかれました。参拝客は、福をつかみ取ろうと「こっちにも豆をまいて」などとアピールし、必死に手を伸ばしていました。また、境内では、甘酒の無料サービスも行われました。



▲仁王門前で行われた豆まきの様子

交通安全用器材贈呈式

交通事故から子どもを守る

2月4日（月）、揖斐警察署で、ロードコーンに被せる交通安全啓発の立体表示カバーの贈呈式が行われました。

交通安全用資材は、岐阜県中古自動車販売商工組合 西濃支部北ブロック（久保田泰弘ブロック長）と揖斐地区交通安全協会（樋口直嗣協会長）から揖斐郡内全小学校（20校）と揖斐特別支援学校（谷汲深坂）に贈呈されました。

久保田ブロック長は「事故なく幸せに暮らすために、子どもたちには特に自転車事故に気をつけてほしい。自転車運転のマナー向上も大切です。」「樋口協会長は「子どもたちの事故が無くなることを願っています。」と話されました。



▲交通安全用器材贈呈式（揖斐警察署）